

2022 年 12 月 21 日

医療関係者 各位

東 和 薬 品 株 式 会 社
大阪府門真市新橋町 2 番 11 号

FOVE 社 視線追跡型 VR デバイス 「認知機能セルフチェッカー」の本格展開を開始

謹啓 時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

このたび弊社は、株式会社 FOVE（本社：東京都港区、代表取締役社長兼 CEO：唐木信太郎、以下：「FOVE」）と連携の下、視線追跡型 VR デバイス「認知機能セルフチェッカー」の医療現場への普及を目的とし、本格展開を開始いたしましたのでお知らせいたします。

謹白

記

FOVE が開発した「認知機能セルフチェッカー」は、VR による映像刺激と高精度な視線追跡技術を組み合わせ、視線・眼球の動きを解析する手法により、約 5 分で認知機能の状態を評価することができるサービスです。本サービスは健常時から定期的に自分自身の認知機能の状態把握をすることで、認知機能低下の予防につなげていくことを目的としています。過去の共同研究*1において、医療機関等で多く利用されている既存検査法の「MMSE」「MoCA-J」と、本測定法による結果に高い相関性が得られており、簡便に認知機能の状態評価が行えるサービスとして有用であることが示唆されています。

既に複数施設への導入実績があり、医療機関・利用者双方に負担が少なく、認知機能の評価ができる認知機能評価サービスとして期待されています。



「目の動き」を追跡し5分程度で測定可能



測定結果は認知課題カテゴリーごとに評価

超高齢化社会の日本において、認知症患者数は 2025 年に 730 万人に達すると予測され*2、認知症の前段階である MCI（軽度認知障害）を合わせると今後も著しい増加が見込まれています。認知症予防においては、MCI 段階における早期発見の重要性が指摘されており、認知機能の状態変化を評価・把握し、健常な段階から適切な予防策を実践することが重要であるといわれています。

弊社と FOVE は、「認知機能セルフチェッカー」の更なる普及を通じて、社会課題の解決に寄与いたします。

「認知機能セルフチェッカー」の詳細は、以下 URL をご参照ください。

<https://towayakuhin.co.jp/healthcare/lp/selfchecker/>

《導入事例》

公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院附属予防医療プラザ

<https://www.kchnet.or.jp/plaza/>



施設外観

*1 株式会社 FOVE 及び筑波大学で共同研究を実施しています。詳しくはこちらをご参照ください。

<https://towayakuhin.co.jp/healthcare/lp/selfchecker/>

*2 「日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究」（平成 26 年度厚生労働科学研究費補助金特別研究事業）

以上